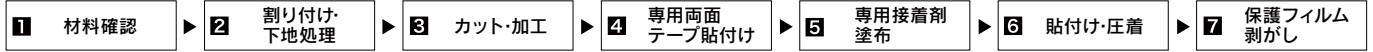


施工について

施工前

- 施工する際は必ず製品同梱の「施工説明書」をご確認ください。
- タイルへの施工については、同梱の「施工説明書 タイル下地用」をご確認ください。
- 浴室など、湿度の高いところ、大量の水が直接かかるところには使用できません。

施工手順



施工工具

加工に関する道具は下記をお使いください。但し、ハマカケが起こらないように刃物は新しいものをお選びください。

<p>①切断加工</p> <p>防じん丸のこ(チップソー・ダイヤモンドソー)</p> <p>施工時における切断用刃物について</p> <ul style="list-style-type: none"> •刃物には「外径」「刃厚」「刃数」の規格が定められています。 •「外径」「刃厚」はお手元のチップソーに合ったものをご使用ください。 •「刃数」はできるだけ多いものをご使用ください。 	<p>①穴あけ加工</p> <p>ドリル、ホールソー、ルーター、トリマー</p>	<p>①仕上げ</p> <p>サンドペーパー、ヤスリ</p>
---	--	--------------------------------

施工前の確認

1 下地の確認 **重要**

まずはリテクトの施工が可能かどうかご確認ください。

1. 下地の種類のチェック

[適しない下地について]

- 湿気を帯びた下地
- A L C 躯体への直貼りはできません。
- R C 壁面への直貼りはできません。
- 塗装面・クロス面・化粧面への直貼りはできません。

※その他、下記「施工可能な下地」に該当しない下地の場合は、必ず当社までお問い合わせください。

[施工可能な下地について]

- プラスターボード (推奨 12.5mm以上)

- モルタル面 (含水率4.5%以下・密着強度1.0N/mm²、平滑な金コテ仕上げ、不陸2mm以下)

- ケイカル板 (推奨6mm以上・比重0.8以上)
- ラワン合板 (推奨9mm以上)

プライマーを
全面に塗布してください。

① ご注意

※下地材の選定と構造の作成は建築基準法や火災予防条例などの法令・法規に適合する様に行ってください。

2. 下地の施工精度のチェック

- 壁面の水平・垂直の確認を行ってください。
- 壁面に不陸がないようにしてください。

2 貼付け壁の確認

キッチン部壁面の下地構造は法令に従い、施工してください。また、リテクト表面への極度な熱伝導を防ぐため、次のことが守られていることを確認してください。

[ビルトインタイプコンロの場合]

- コンロの側面からリテクトの表面まで15cm以上離してください。15cm以上離せない場合、コンロの熱により変色やコゲが発生する場合がありますので防熱板を使用してください。
- グリルの排気口が背面側に設置しているタイプのクックトップについてはグリル排気で壁面が高温になり、変色やコゲが生じる場合があります。奥行き65cm未満のカウンターで使用する場合は防熱板を使用してください。
- 奥行き65cm以上のカウンターで使用する場合もコンロやグリルダクトと壁面が近接する位置に設置するなど、壁面が高温になる懸念がある場合は防熱板を使用してください。

[据え置きタイプコンロの場合]

- 据え置きタイプのコンロで壁面とコンロの距離が15cm以上離せない場合(側面、背面)は防熱板を使用してください。防熱板を設置する際、防熱板メーカーの施工説明書に従って壁面との距離を必ず取ってください。

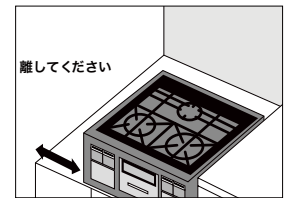
※以上の条件を満たしても直接炎がリテクトに当たらないようにご注意ください。

※コンロの周囲の壁面構造は各自治体の火災予防条例などにより規制されます。規制に従った構造を作成してください。

※4600kcalを超える業務用コンロに近接する部位には使用しないでください。

※加熱された鍋類が直接リテクトに触れる事が無いようにしてください。

※リテクトの表面化粧層の耐熱温度は180℃以下となります。それ以上の熱が加わると化粧面に変色やコゲ、化粧層の剥離が発生することがあります。(変色やコゲ、化粧層の剥離が発生しても不燃性能には影響ありません)



離してください

施工方法

1 割り付け・プライマー下地処理

① 割り付け時の注意点

- 下地材の目地とリテクトの目地が重ならないように、割り付けてください。
- リテクトで突き付け施工はできません。
- シーリング材・目透かしで施工される場合、3mm以上の目地を取ってください。ジョイナーで施工される場合も、必ずクリアランスを取ってください。
- 開口部の位置及び外観を考慮して、端材が少なくなるように割り付けてください。

① ご注意

[下地材がモルタル面・ケイカル板・合板の場合]

リテクトを貼付ける部分の全面に予めプライマーを塗布してください。

※プライマー塗布は、材料メーカーが指定(推奨)する施工方法を厳守してください。

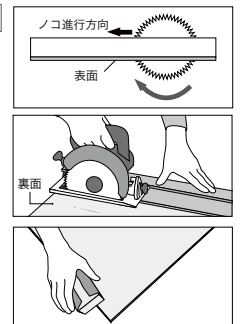
2 カット・加工

① カットする時の注意点

- 切断は当木を用いて、必ず刃物を表面から入れて裏面から出るようにしてください。(表面には保護フィルムが貼ってあります)
- 保護フィルムが付いていますが、取り扱いには充分ご注意ください。保護フィルムは剥がさないで切断してください。

面取り方法

カット面はサンドペーパーを当木にそえて面取りしてください。

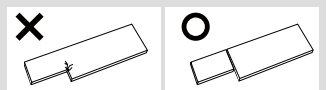


① 穴あけ・切り欠きの注意点

- 穴あけ・切り欠きは必ず12φ以上の刃物を用いて、表面からコーナー部に穴をあけてから行ってください。
- カット後のバリ・カケは、クラックの原因となる場合があります。カット面をサンドペーパーで平滑にしてください。

① ご注意

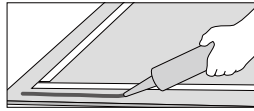
※下図のようにピン角でカットした場合、クラック発生の恐れがあります。ピン角でカットした場合、切り欠きではなく複数枚を使用する割り付けとしてください。



3 両面テープ貼付け・接着塗布

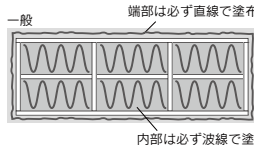
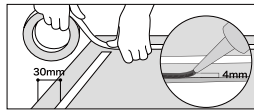
1 テープ貼付けの注意点

- リテクトの端部に接着剤を塗布するためのスペース30mmをあけて、両面テープを貼付けてください。



2 接着剤塗布の注意点

- 接着剤は高さ4mmで塗布してください。
- リテクト外周には必ず接着剤を塗布してください。
- リテクト3尺×8尺1枚に対して、接着剤を1本が目安の塗布量です。塗布量が少ない場合、剥がれなどの原因となります。
- 接着剤塗布後10分以内に貼付け圧着してください。



3 専用接着剤使用環境の注意点

気温は5℃以上で施工を行ってください。

凡例: リテクト(裏面) 接着剤 両面テープ

4 貼付け・圧着

1 貼付け時の注意点

- リテクトを貼り付ける際に、中央部に浮きが発生しないように注意してください。又、貼付け時は開口部・切り欠き部に歪みが発生しないようにしてください(施工後のクラックの原因になる場合があります)。
※両面テープが壁面に一度接着すると、調整ができなくなります。

2 圧着する時の注意点

- 両面テープ部をしっかりと押さえてください。
※接着剤部を押さえると泣き別れの恐れがありますのでご注意ください。
- プラスチックハンマー等を使用するときは当て木を使用し、直接リテクトを叩かないようにしてください。
※直接リテクト表面を叩き付けるとクラックの原因になる場合があります。

5 保護フィルム剥がし

2日間以上養生後、表面の保護フィルムを剥がしてください。

■施工について

RETECT

リテクト
メラミン不燃化粧板

IBIDEN IBIKENイビケン株式会社

ご注意

1 施工上のご注意

- 施工前に製品同梱の「施工説明書」をよく読み、正しく施工してください。
- 同梱の「取扱説明書」は必ずお施主様にお渡しください。
- 施工される前に品番及び輸送時の破損・傷の有無をご確認お願い致します。その後の責任は負いかねますので、ご注意ください。
- 当製品は建築基準法・火災予防条例などの法令・法規に従って施工してください。
- リテクトは環境の変化により伸び縮みがあります。必ず注意事項に従って施工してください。
- 当製品は浴室用途や水を大量に使用する施設の壁面には使用できません。
- 湿気を帯びた下地・施工後に湿気を帯びる可能性のある下地や、高温度・高湿度になる場所には施工しないでください。
(剥がれや浮きの原因となります)
- リテクトは保護フィルム、品番ラベルの貼付け面が表面です。
- 搬入時、現場内での運搬はリテクトがたわむため、2人以上で作業を行ってください。
- 5℃以下の環境では施工しないでください。(接着剤の硬化不良の恐れがあります)
- 接着剤、シーリング材については、それぞれのMSDS(製品安全データシート)にて詳細な安全情報をご確認ください。

2 安全についてのご注意

下記の注意事項は、ケガや事故を事前に防止するためのものですので、必ずお守りください。

注意事項

- 両面テープ・専用接着剤を使用してください。
- 接着剤使用時は、十分に換気し、皮膚や目に付着しないように適切な保護具を使用してください。
- 下地施工は材料メーカーが指定する方法を厳守してください。
- 家庭用加熱調理機器とリテクト表面とは十分な距離を離してください。
詳細については製品同梱の「施工説明書」をご参照ください。
- 業務用加熱調理機器の場合は、家庭用に比べ熱量が極端に高く、近接する部位にはご使用できません。
- 運搬・作業時には滑り止め手袋を着用するとともに、加工時に粉じんが発生するため、保護マスク・保護メガネを着用してください。
尚、防じん丸のこを使用し、換気を良くして作業を行ってください。もし、粉じんが皮膚についたり、目・鼻・口に入った場合は、速やかに水で十分洗い流してください。
また、異常を感じたら医師の手当てを受けてください。
- カット・加工した端部で手を切る可能性があるため、必ず端部をサンドペーパーで面取りをしてください。

3 在庫・保管に関してのご注意

- 在庫保管は直射日光や雨の当たる場所を避け、風通しのよい室内に保管してください。
- 地面への直置きは避け、平らな場所でパレットなどの上に平積みしてください。壁などに立てかけると、そりの原因になりますので、絶対におやめください。

お手入れ方法

- 通常の汚れには、水または中性洗剤、アルカリ性洗剤(塩素をふくまないもの)を使用し、布やナイロンスポンジなど柔らかいもので拭いてください。その後、水で濡らし、すすいで洗剤が残らないよう十分、汚れを拭き取り、乾いたタオル等で乾拭きをしてください。また、濃い柄で手油が目立つ場合には、市販のアルコール除菌剤をお使いください。

※アルコール除菌剤は引火しやすいため、火気の近くでは使用しないでください。

1 お手入れのご注意

- ベンジン、ガソリン、アセトン、シンナーなど有機溶剤は使用しないでください。
- ワイヤーブラシ、金属タワシなどを使用しないでください。表面に傷がつきます。
- 塩素を含む洗剤は使用しないでください。拭き取りが悪いと表面が変色する場合があります。
- 酸性洗剤は使用しないでください。変色する場合があります。
- 油性マーカー等で書くと、汚れが落ちなくなる場合がありますので、ご注意ください。